OOYAMA MASAYUKI'S ONE POINT

「シーガー使って今日も快釣」

鈴木新太郎、粕川晃のワンポイントアドバイス

★鈴木さんの仕掛けは「シーガーグランドマックスFX」5号7.5メートルと同3～4号3～4.5メートルのテーパー、粕川さんは「シーガーFXR船」6号6メートルとグランドマックスFX4号4メートルのテーパー、いずれもしなやかさが特徴のラインだ。1本バリの鈴木さんは移動結びと南方延縄結び、2本バリの粕川さんは要所に編み込み処理を施して大ダイに備えている。ガン玉は状況によって付けないこともあるそうだ。実績と経験値による仕掛け、皆さんもぜひご参考に。

▲出船直前に仕掛けを作るのが鈴木スタイル

◉コマセワークにもエサ取りの有無で工夫を凝らす必要がある

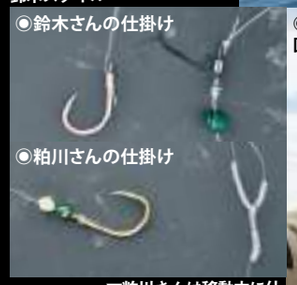
★粕川さんは中盤に1枚を釣って余裕の表情

Challenge #84
三浦半島剣崎
松輪港出船

★放流サイズやゲストに悩まされていた鈴木さんは納竿30分前に待望のマダイ

シーガー FXR 船
▼2～20号まで。各100m巻きで4～5号3500円、6号4200円

シーガー グランドマックFX
▲0.3～10号まで。各60m巻きで3～4号は3400円



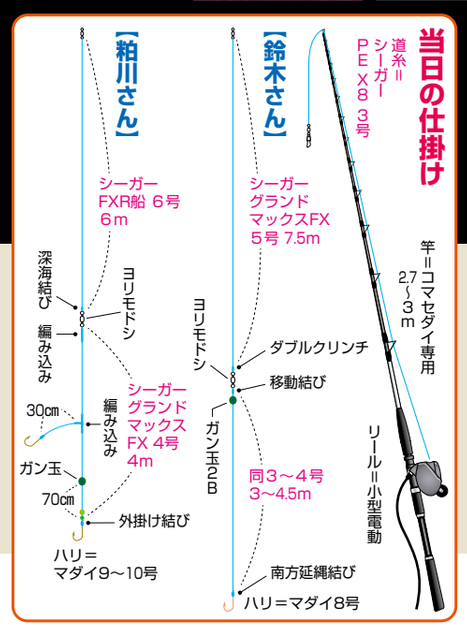
◉鈴木さんの仕掛け

◉粕川さんの仕掛け

▼粕川さんは移動中に仕掛けが絡まぬようこんな仕掛け巻きを

◉一時はクロダイの回遊にも沸いた

◀「またイナダかあ」と言いながらしっかりクーラーへ
▼脂たっぷりのイサキはいい土産になる



▲同船者にもポツポツ釣れたが、いずれもこのサイズ

▲クロダイはトップ3枚、いずれも良型だった

「大型に備えて4号ハリスなんですけど、FXなら3号でもいいかも」と照れ笑い。一方の鈴木さんはアタリはとらえるものの、相変わらず放流サイズやイサキ、イナダばかり。

「仕掛けを動かしすぎなのかなあ」

手持ちスタイルで誘う釣りが多い鈴木さんは、ここで作戦変更。じっくり置き竿で狙う作戦に変えたようである。

この場所では徐々にクロダイの活性が高くなり、1～2キロ級が顔を見せるようになる。鈴木さんは2枚、乗船者の中には3枚釣った方もいた。

最後に船長は大きく釣り場を移動し、65メートルダチに移動。ここでもアタリは遠いものの、残り30分でようやく鈴木さんが首を縦に振りながらヤリトリ開始。0.7キロを取り込みホッとした表情を見せ、無事に13時半の納竿を迎えた。

マダイの食いは今一つだったものの、

「乗っ込みに備えて、コマセダイの釣り勘を取り戻すには収穫ある釣りでした」と2人とも久しぶりのマダイ釣行に満足したようだった。

釣れる釣れぬは糸次第

鈴木新太郎、粕川晃

◉ダブルヒットか、と思われたがいずれもゲストのイナダだった

◉この時期でイナダも珍しい

▶貴重なターゲットだけに安心のラインを使用したい

▶剣崎沖の50～90メートルダチを狙った

乗っ込みに備えての腕慣らし
渋いながらも仲よく本命手中

◉乗っ込みマダイのシーズン間近となった。三浦半島剣崎沖では例年、4月の声を聞くと気配が現れる。3月初旬、天候も不安定で水温も低い中、鈴木新太郎、粕川晃の名手2人がマダイに挑戦。もちろん乗っ込み前の腕ならし、あわよくば大ダイの釣行である。

北東風が吹き荒れ、真冬に戻ったかのような寒い朝、釣行したのは三浦半島剣崎松輪港の成銀丸。船長にここ数日の状況を聞くも、乗っ込みとはほど遠い釣れ具合。それでも2人は気にする様子もなく、船に乗り込む。

右舷トモに並んで座り、準備を始める。鈴木さんは例によって船長のアドバイスを聞いてから仕掛けを作るスタイル。粕川さんはこれまでの実績と経験から用意した自製仕掛けを取り出す。

6時半に出船。まずは剣崎沖水深60メートル前後、タナ45メートルで釣り開始。思ったより潮は緩いものの、澄みすぎが気になるところ。風も強く仕掛けの扱いがやっかいだ。

そんな中、早くも竿を曲げたのは鈴木さん。

「何か小さいものが付いている」と言いながら取り込んだのは25センチ級の放流サイズだった。

「活性はいいようですね」と粕川さんもさりげなく竿を曲げたが、首を捻りながら海面に浮かせたのは35センチ級のイナダだった。

この後は時ならぬイナダの回遊で船中大わらわ。食いが収まったところで移動。次は大型が期待できる90メートルダチの深場へ移動するも、アタリすらなく再び元の釣り場に戻る。

ここでようやく粕川さんが小気味よく竿を曲げ、0.8キロ級のマダイを釣り上げた。

◉Presented by Kureha Gohsen　問い合わせ／クレハ合繊(株)☎0282・82・6133

◉取材協力／三浦半島剣崎松輪港　成銀丸 ☎046・886・1719(詳細は巻末の情報欄参照)